

# みみタロウ

日本語版

71号 2008年8月

滋賀県国際協会 ボランティアグループ「みみタロウ」

大津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海2F

Tel / Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

## これからも日本で生きていくために

橋田 ソコ



16年前日本人と結婚し、滋賀県にやってきました。私の母は戦前、フィリピンのセブ島の日系企業で働いていました。私は母の歌う日本の歌を聴きながら育ち、嘘をつ

かないことや人は外見じゃないこと、きれい好きなど日本人の価値観をしつけてもらいました。残念ながら戦争はありましたが、母は「戦争が人にさせたことだから仕方がない」と日本人への信頼は変わりませんでした。だから私が結婚を迷った時、「あなたはそのまま大丈夫だから日本に行きなさい」と私を勇気づけてくれ、そして今、私はあの時の母の言葉に感謝しつつ暮らしています。

私は学校などでタガログ語や英語の通訳をしています。でも来日当初は日本語ができなくて大失敗をしたことがあるんですよ。ある日家に至急の回覧板が回ってきたのですが、日本語が読めなかったでそのまま夫の帰宅を待っていました。ところがその内容は、近所の方のお葬式のお知らせで、私が直ぐに回覧板を回さなかったために結局私の近所の人々はお葬式に参列できなかったのです。こんなことがあったので、言葉ができないと日本でちゃんと生きていけないと思い、必死で勉強しました。言葉は自立して生きるために絶対必要です。いつまでも人に頼って生きるわけにはいきませんから。

特に子どもがいるお母さんが日本語の読み書きの基本を知っておくことは、家庭のためにもとても大切なことだと感じています。学校に行き始めた子どもには家庭のサポートが必要で、子どもがたずねたことを少しでも教えることが親子の幸せでもあるからです。「お母さん、わからないんだもん」と子どもが言うのを耳にすると悲しくなります。もし母親が何もサポートできないと子どもの心が母親から離れてしまい、子どもとの絆がうまくいかなることが多いのです。日本語の初歩、小学校1、2、3年生の日本語を知っていれば、子どもが母を必要とする時期をサポートできますし、子どももどんなに母親を尊敬するでしょう。少し大きくなると、ひとりでするようにな

るので。父親が日本人の場合、子どもは母親を頼りにせず父親ばかりを頼るようになります。いつのまにか父親に負担となり、母親は孤立してしまうことになって家庭がうまくいかなることがあります。だから、自分と家族のためにも少しずつ言葉の勉強をして、話すだけでなく少しでも読み書きできるようになってほしいのです。

タガログ語のアルファベットが日本語と似ていることもあって、日本にいるフィリピン人は言葉が話せる人が多いのですが読める人は僅かです。フィリピン人は元来、とても明るく社交的なのですが、いろいろな案内のチラシが来ていても読めないのであちこち行きたいのに行けない、ということになってしまっています。そしてこんな暮らしをしていると、悲しいことに段々と心が狭くなってくるようなのです。そうなると思循環で、家庭もうまくいかず、日本のことも悪い面しか見えなくなり、楽しいフィリピン人同士の集まりもいつのまにか不満をぶつけ合うものになってしまいます。もし、そこに日本人が入っていれば、全く違うものになるのだと思いますが、不思議なことに日本人とはきっかけがなく、普段の付き合いがなかなかないのですよ。私たちはこれから先も日本で生きていくので、地域の人とつながってここに自分の居場所を見つけなければならぬのに。もし地域の人に一声かけてもらえれば、人と心のつながりが感じられ、それだけでとても心が満たされると思うのです。日本人はこちらからたずねると親切に教えてくれるのですが、なかなか遠慮して声をかけてくれないし、私たちが外国人なのでこちらから話しかけることができません。でも挨拶だけなら、どの人もできると思います。もし挨拶をきっかけに自然な人とのつながりができたら、私たちも地域で安心して暮らせます。地域の人には話かけてほしいし、色々教えてほしいのです。そして私たちの誰かが何か教えてもらえると、その情報は私たちのネットワークで広がります。防災や教育など色々な面で私たちは社会とつながる情報のネットワークを必要としています。近所の人からお祭りの案内のチラシを手渡されたら、そしてそれがもし英語かタガログ語で書いてあれば、「あっ、自分たちも地域に受け入れられているんだ」とみんな大喜びで参加しますよ！ ちょっとしたことでも、日本人も外国人も一緒に楽しく暮らせる社会ができると思うのです。